

## イネ植物体内におけるセシウムイオンの動態と分子機構の考察

東京大学大学院農学生命科学研究科放射性同位元素施設

准教授 田野井慶太郎

主食が米である日本人にとって、イネにおける放射能汚染の影響は福島第一原発事故以降もっとも高い関心事であった。事故後 1-2 年は放射性セシウムが基準値を超える玄米が検出されたものの、農地へのカリウム施肥を主とする低減対策により、現在福島県で生産される米については、全袋検査においても 100Bq/kg を超えるものは検出されていない。一方で、今後同様の放射能汚染があった場合でも安全なコメ作りを行うためには、セシウムを吸収しにくいイネを開発する必要がある。そのためには、イネがどのようにセシウムを吸収し玄米へ運ぶのか、そのメカニズムを明らかにすることが重要である。現在我々は、玄米のセシウム濃度の高低に着目して品種を選び、その違いから玄米へセシウムが運ばれていく過程を明らかにすることを試みているところである。本発表では、**RI** トレーサーを用いた解析や遺伝学的な解析など具体的な取り組みについて紹介するとともに、近年明らかになってきたセシウム輸送に係わる遺伝子にも言及しながら、将来、セシウム吸収が低減されたイネ作出の可能性について議論・考察したい。